

Literature Circles

□所要時間	60分程度
□主なスキル	スピーキング、ライティング、リーディング
□形式	例) ペア、4人のグループ
□概要とねらい	
<p>多読は個々人が選んだ本を、それぞれのペースで読む方法です。一方、Literature Circlesはグループメンバー全員が同じ本を読み、その本を多面的に考察するために意見交換、議論を行う Shared Reading の一手法です。読み手は本そのものを楽しむために読んだ後に、自分の役割（視点）に応じて客観的、クリティカルに、あるいは共感的に再度読み、気づきや考察点を役割シートにメモします。グループ活動では、それらを紹介し議論します。</p>	
□事前準備（必要な教材、器具など）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題本 ・ 役割シート(Role sheets) <p>Discussion Leader, Summarizer, Connector, Word Master, Passage Person, Culture Collector¹</p>	
□手順	
<p>Lesson 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業前に教員が選書する。その際、学習者の英語力、興味、役割シートの役割等、総合的に勘案して、活発に学生が議論しやすい本を選ぶ。 2. 課題本を次週までに課題として読んでくることを伝える。1度目は読書そのものを楽しみ、2度目は各自 Role Sheet の役割に沿って読むことを説明する。以下、簡単に6つの役割を紹介する。 <ul style="list-style-type: none"> Discussion Leader=ストーリーの内容に関する平易な質問をするとともに、進行役として議論を助ける。 Summarizer=要旨をまとめ紹介する。 Connector=ストーリーの内容を社会の出来事あるいは自分自身の経験と結び付け、その気づきを紹介する。 Word Master=ストーリー中の重要語や表現を紹介する。必ずしも新出語というわけではなく、そのストーリーにおいて重要な役割を持つ語や表現を紹介する。 Passage Person=ストーリーを読んで出会った印象的な文や一節を紹介する。 Culture Collector=ストーリー中の異文化的要素を紹介する。 3. 書画カメラを使い、Role Sheets と Role Sheet Examples²を示し、それぞれの役割を説明し、学生から質問があれば答える（通常、Literature Circles の役割や進め方に慣 	

れるのに2~3回の実施を要する)。

4. 各グループ内の学生に異なる Role Sheet を配布し、次回授業までに記入することを指示する。上述のとおり、各学生の英語力、経験値、社会的スキル等を考慮してどのシートを誰に配布か考えることが好ましい場合もある。

Lesson 2

1. 6人ずつのグループを作って、それぞれのグループに6つの役割を割り振る。グループ内の各メンバーは異なる役割を担う。議論の手順や留意点を説明し活動時間を伝える。それぞれの役割の学習者一人が話すのに数分~10分を要するため、合計約45~60分を話し合いに要する。
2. 各グループで、どの役割の人から話し始めるかを決めてから議論を始める。通常は Discussion Leader がウォームアップとして、読んだ本に関する質問をし、その後進行役として議論を進める。議論が円滑に進むよう教員が巡回して助言や質問をする。
3. 時間的に余裕がある場合は、各グループの代表者から議論のまとめを報告してもらい、教員から一言コメントを寄せる。

【学生の反応】

ここでは、*Courtney* 実践の感想を紹介します。この物語は平易な言語を使いながら、さまざまな解釈が可能でディスカッション向きです (*Courtney* については絵本紹介記事を参照ください)。

- ・ それぞれ役割分担をして情報共有するのが新鮮で良かった。効率が上がった。
- ・ 私が気付かなかったことをグループの人が気付いてくれて理解が深まったと思う。最初、ストーリーが上手く理解できなかったが、話し合ううちに理解できた。
- ・ 結末がもやもやするので、たくさんの人の意見を聞きたいと思った。色々な人の意見が聞けて良かった。
- ・ 読んだ後に多くの疑問が残る話だった。人によって捉え方が変わる話なのではないかと思う。グループの人と意見交換できて良かった。
- ・ ただ絵本として読むだけより、あるポイントに注目して読んでみる事で一冊の本をより理解できるということを学びました。
- ・ 準備時間をもっと長くにとって欲しかったです。役割の説明は日本語で詳しく言ってもらえると幸いです。
- ・ Connector がすごく難しかった。

【応用・解説】

Literature Circles はアメリカの初等・中等教育で実践されており、複数の実践方法が存在しています。本稿紹介例は、“Oxford Bookworms Club Reading Circles Teacher’s Site”(Oxford University Press)²が提唱する Reading Circles と名付けられた方法を参考にし、このサイトで提供されている Reading Circles Role Sheets を利用しました。課題本の内容、学生の英語力、議論経験の有無、グループの構成員数により役割数を調整した方がよいでしょう。議論の発展に寄与する度合いが高いのは Connector, Culture Collector ですが、具象～抽象概念を行き来する思考操作や異文化経験の有無により、これらの役割の取り組みが難しい学習者もいるためです。一方で、多読本は言語コントロールされているため、ただ読むだけだと知的成熟度が高い学習者は物足りなさを感じることがあります。そのような学習者は、言語的には容易に取り組むことが可能でありながら、認知的な達成感を得ることができるでしょう。

Oxford Bookworms Club Series は、Reading Circles 用に複数レベルの短編集を用意しています (Stage 1～5/YL 2～5)。日本人学生は母語であっても議論そのものに慣れていないことが多く、英語での議論では、さらに負荷がかかるため普段読んでいる本よりも低いレベルの本を選定するのがコツです。英語での議論が難しいクラスでは Role Sheets に書いた英語メモを読み上げ、日本語で補足し意見交換する方法を推奨します。

(注 1) Photocopiable sheets

http://newdoc.nccu.edu.tw/teasyllabus/113646032019/reading_circle_role_sheet.pdf

(注 2) <https://elt.oup.com/teachers/readingcircles/?cc=de&sellLanguage=de>

【その他備考】

一般的な多読実践ではありませんが、参考までに上級者クラスでの Literature Circles 実践報告を挙げておきます。

Kusanagi Y. (2015) Literary Reading Circles and Short Essay Activities for English Learning among Medical Students. In: Teranishi M., Saito Y., Wales K. (eds) *Literature and Language Learning in the EFL Classroom*. Palgrave Macmillan, London. https://doi.org/10.1057/9781137443663_15

(文責：草薙優加)